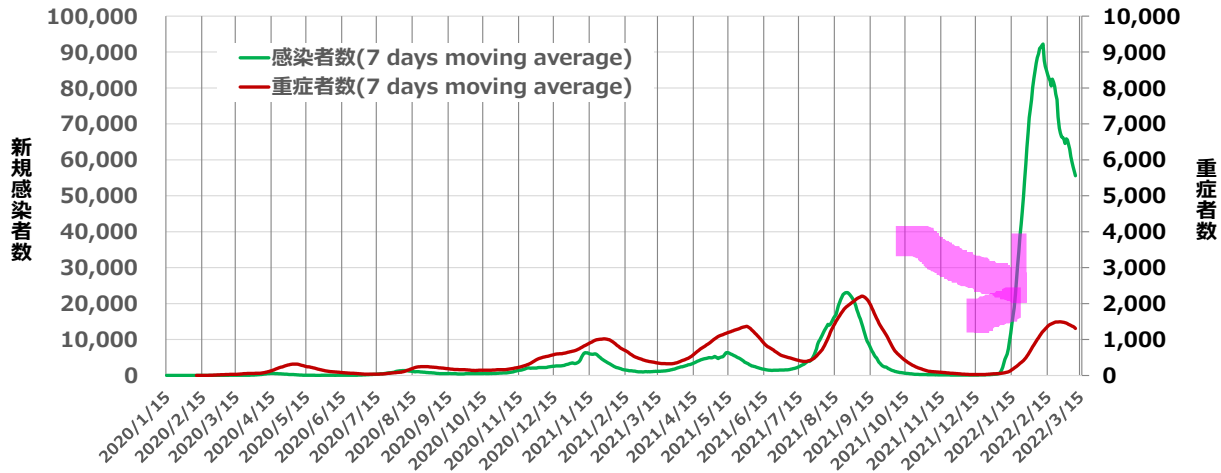
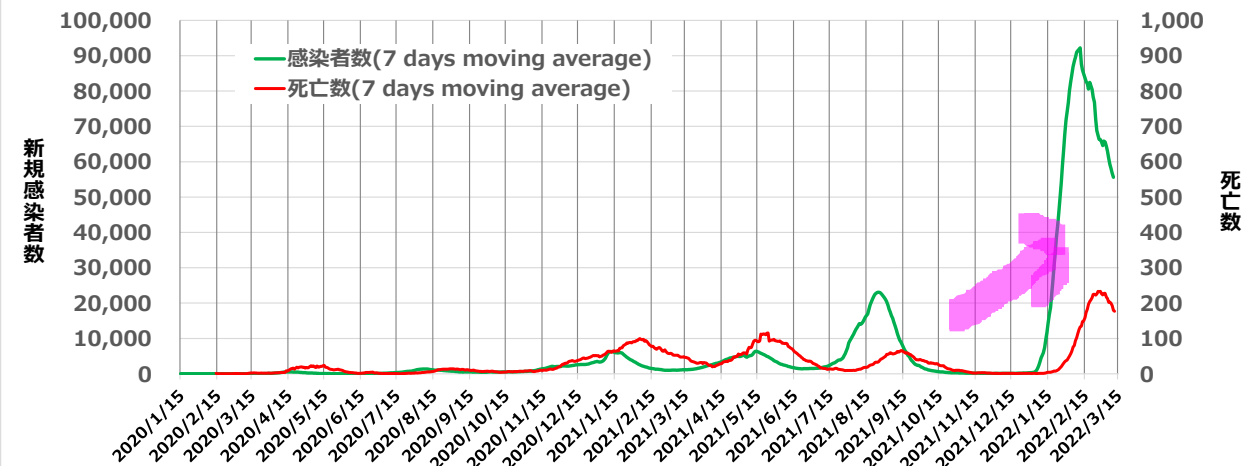


第6波は「看取り」で乗り切った!?

我が国の感染者数、重症者数の推移



我が国の感染者数、死亡数の推移



我が国のSARS-CoV-2上陸後から2022/3/11までの新規感染者数、重症者数、死亡数の推移です。第5波に比較した第6波での重症者数の減少、一方で死亡数の増加が分かるかと思います。何故か？「コロナ感染で高齢者の持病が悪化した為」とか言う識者もみえますが、歯に衣着せぬ言い方を許していただければ、「パンデミック当初に高齢者施設感染者のICU収容を制限したスウェーデン方式」「看取り」が暗黙裡に我が国でも広く適用された結果かと考えます。第149報では愛知県の第1波～第6波の重症、死亡について検討を加えてみました。

今回の検討にあたっての留意点

飛ばし読みして、次頁に進んで頂いて結構です。

- ① 今回の検討は2022/3/11までの結果です。
- ② 第1波～第4波は独自ルートで得られた最終診断に基づく結果です。その為、愛知県が公表した右表とは一部一致しない数字があります。
- ③ 第5波～第6波は基本的に右表に基づいた結果です。
- ④ 但し、第6波では右表の註にも記載されていますが、2022/1/29以降に中核市の一宮市から保健所破綻(?)の為、感染者数、死亡数を除き、中等症、重症者数のデータ把握、公表が中断されました。結果、愛知県公表の右表は一宮市を除いた数字です。今回のIshikawa検討では感染者数、死亡数で一宮市を除いていません。結果として、中等症、重症数(死亡を除く)が今回の検討では過少となります。
- ⑤ 死亡は2022/3/16時点で判明している2022/3/11までの死亡数です。

愛知県の感染者の症状別状況

○ 感染者数に占める重症・中等症の内訳

第1波 (2020年2月～4月)	154人	(32.0%)
第2波 (2020年7月～8月)	444人	(10.9%)
第3波 (2020年10月21日～2021年3月30日)	2565人	(11.9%)
第4波 (2021年3月31日～7月20日)	2371人	(9.5%)
第5波 (2021年7月21日～12月27日)	2745人	(5.0%)
第6波 (2021年12月28日～)	3915人	(1.6%)

区分	感染者数	軽症等	中等症	重症
第1波 (2月～4月)	481人	327人	99人	55人
5月～6月	38人	30人	8人	0人
第2波 (7月～8月)	4070人	3626人	359人	85人
9月～10月20日	1178人	991人	160人	27人
第3波 (10月21日～3月30日)	21496人	18931人	1854人	711人
第4波 (3月31日～7月20日)	24976人	22605人	1665人	706人
第5波 (7月21日～12月27日)	54491人	51746人	2294人	451人
第6波注 (12月28日～3月11日)	246364人	242449人	3085人	830人

※重症：人工呼吸器・ECMO装着者又はICU入室者。重症には死亡を含む。

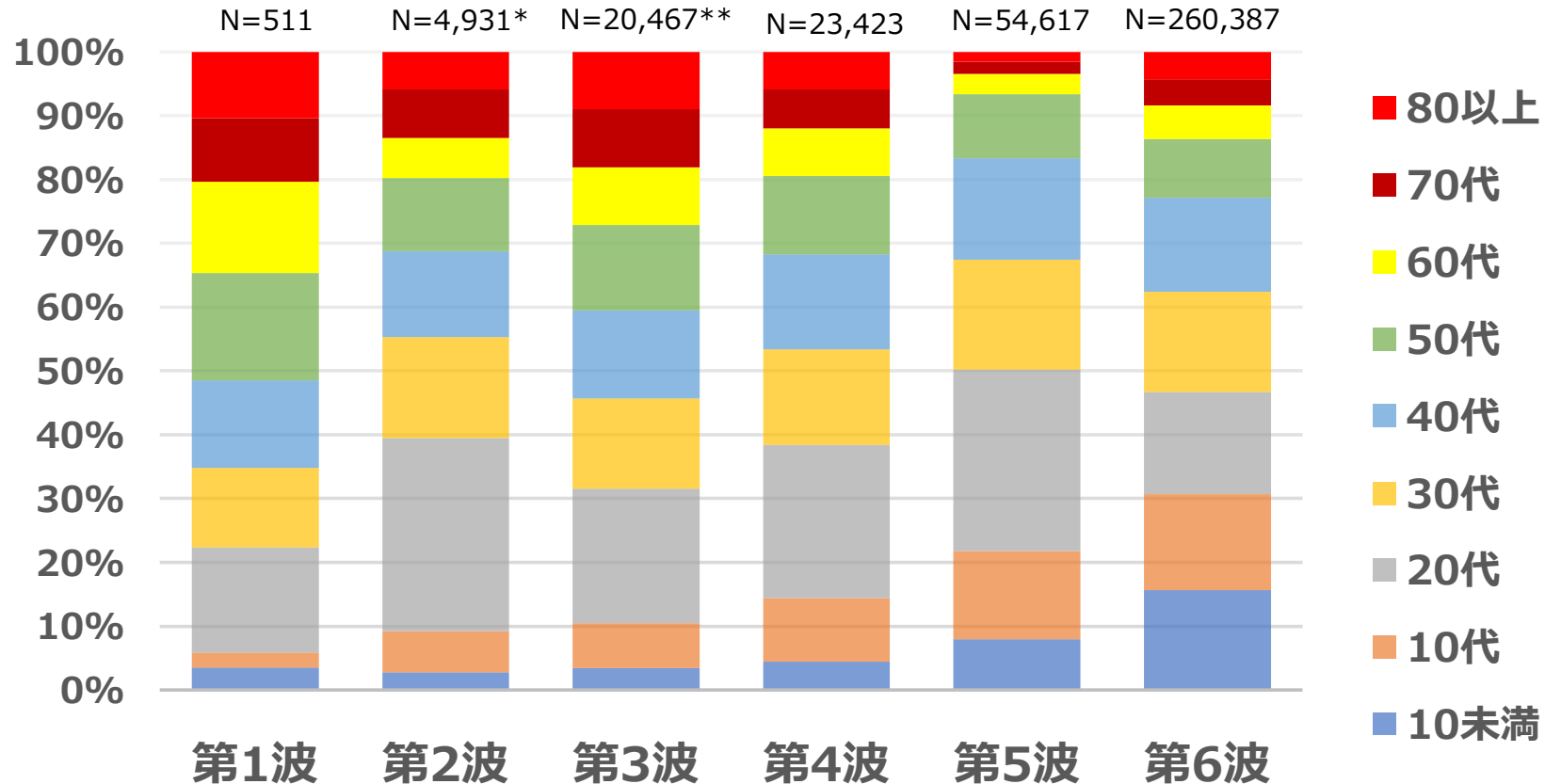
中等症：酸素吸入を実施した者又は肺炎と診断された者

軽症等：上記以外の者

注：第6波は1月29日以降の一宮市分を除き、1月18日から名古屋市再感染事例を含む。また、2月7日から再感染事例を含む。

第1～6波の年齢階級分布

*年齢不詳の3人を除く
**年齢不詳の2人を除く



第1波 2020/1/23～2020/5/31
第2波 2020/6/1～2020/9/30
第3波 2020/10/1～2021/2/28
第4波 2021/3/1～2021/6/8
第5波 2021/7/21～2022/12/27
第6波 2021/12/28～2022/3/11

背景としての第1波～第6波の感染者の年齢階級分布です。

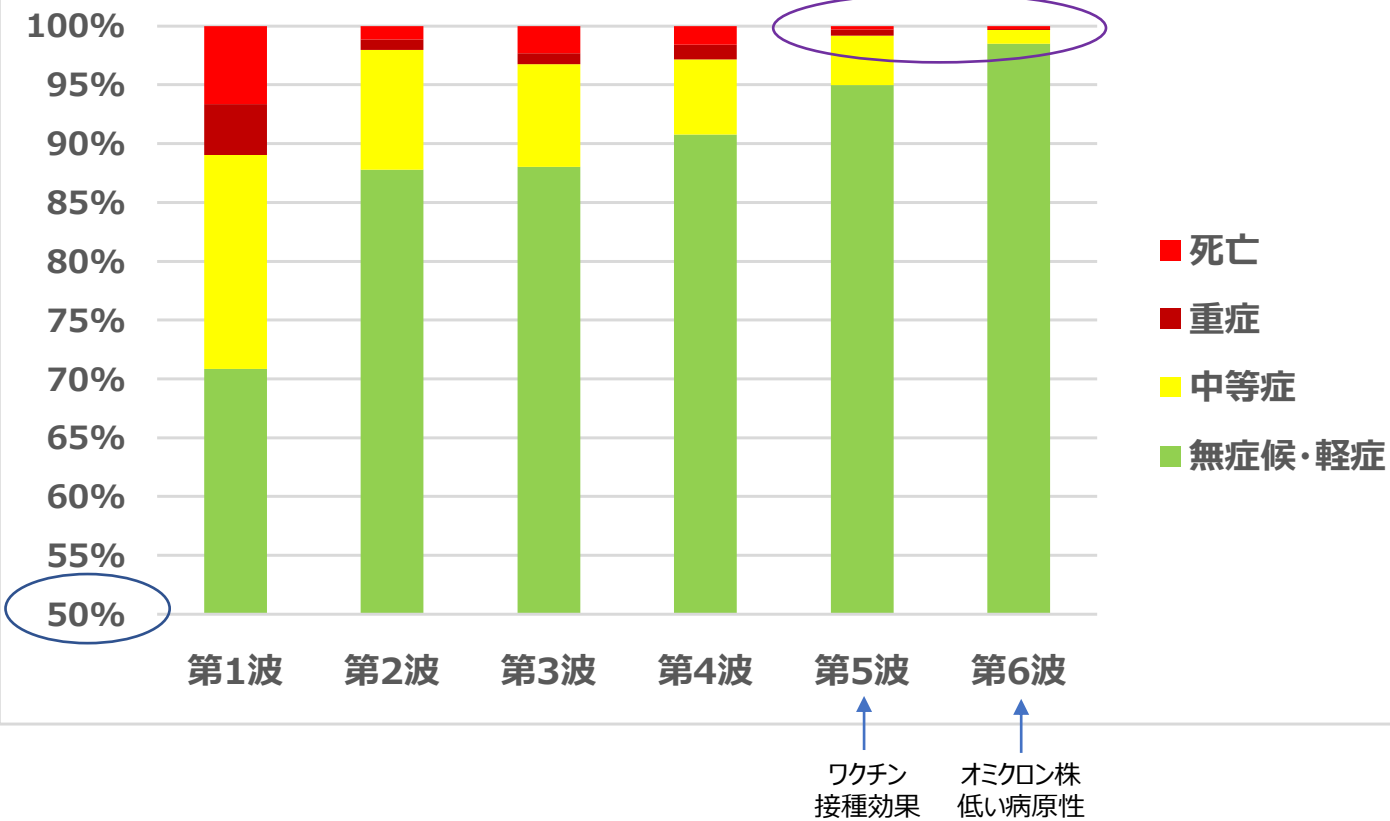
第6波が従来の20代に代わり10歳未満の流行である事が分かるかと思えます。

70歳以上の高齢者は、割合では第6波は第4波(アルファ-株)に近いです。第6波は絶対数では、総計で第4波の約10倍、70歳以上で第4波の約5倍、2万人です。

また、この年齢階級分布から、第5波での高齢者へのワクチン接種が間に合った効果、結果が分かるかと思えます。第6波は絶対数では、総計で第5波の約5倍、70歳以上でブースター接種開始の遅れから第5波の約10倍です

	第1波	第2波	第3波	第4波	第5波	第6波
10未満	18	136	698	1043	4327	40838
10代	12	318	1448	2320	7537	39275
20代	84	1493	4317	5632	15546	41628
30代	64	779	2880	3501	9440	40877
40代	70	666	2838	3493	8657	38422
50代	86	565	2734	2880	5468	24112
60代	73	310	1851	1746	1751	13574
70代	51	374	1862	1428	1049	10781
80以上	53	290	1839	1380	842	11176
計	511	4931	20467	23423	54617	260387

第1波～第6波の病型(割合)



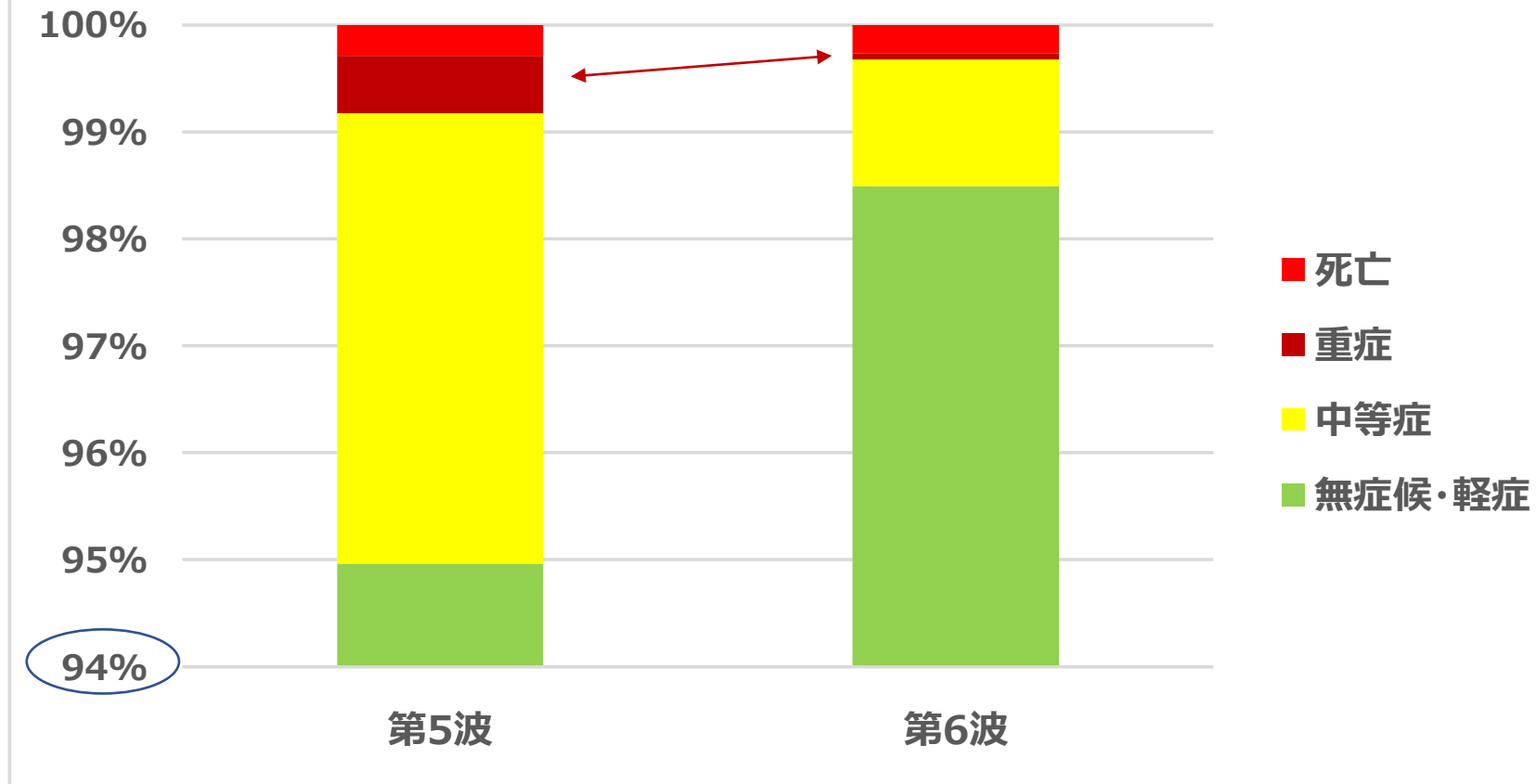
さて、本レポートの主題の第1波～第6波の病型です。

第5波の中等症以上(厳密な入院適応)の割合は5%、第6波のそれは1.5%です(一宮市の中等症、重症が含まれていないので、これより若干は高い)。この図からは、第6波の重症、死亡の部分の詳細が分かりにくいので...

	第1波	第2波	第3波	第4波	第5波	第6波
無症候・軽症	362	4,228	17,982	21,226	51,746	256,457
中等症	93	489	1,776	1,498	2,294	3,085
重症	22	44	193	291	293	155
死亡	34	55	474	371	158	690
計	511	4,816	20,425	23,386	54,491	260,387

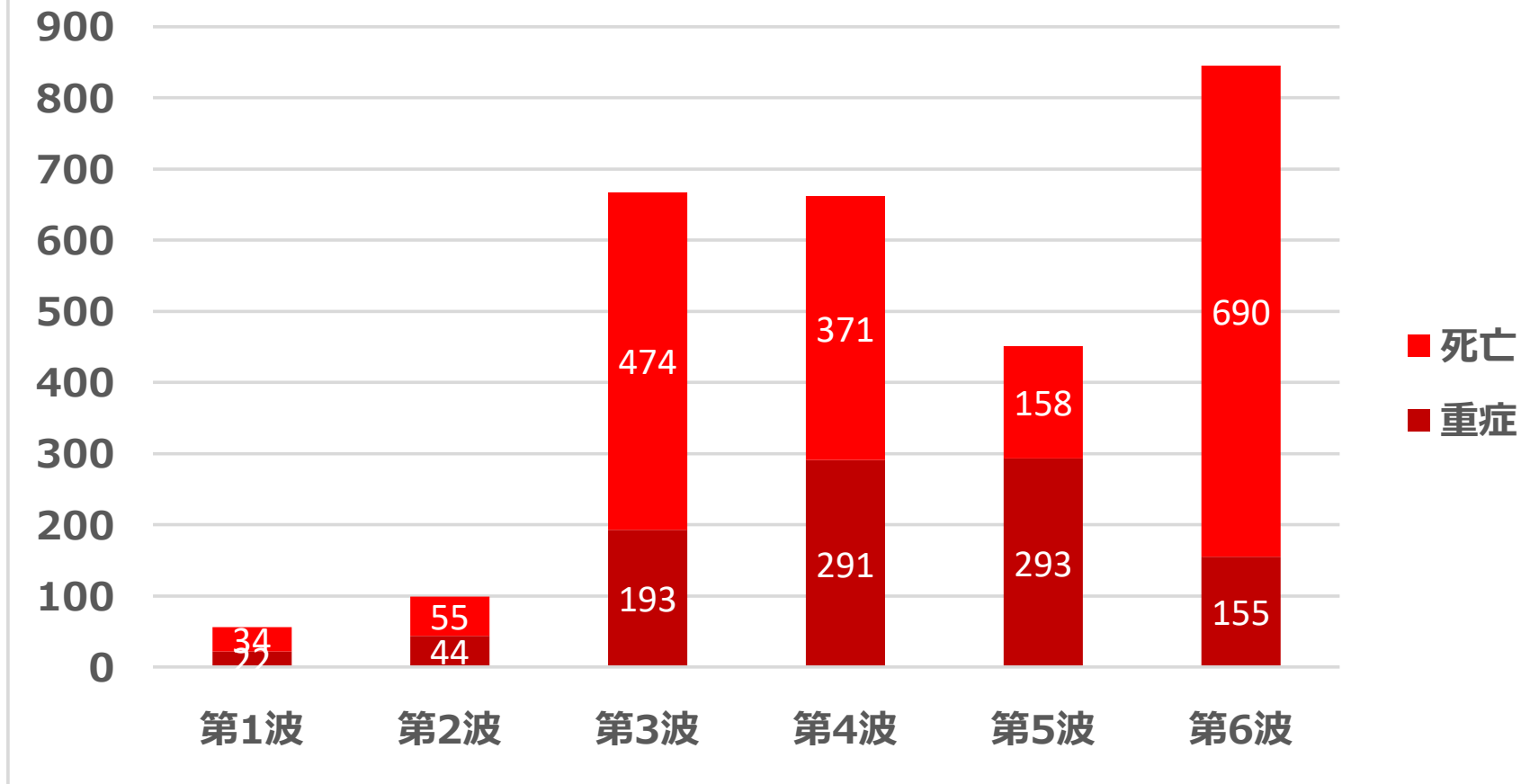
	第1波	第2波	第3波	第4波	第5波	第6波
致死率	6.7%	1.1%	2.3%	1.6%	0.3%	0.3%
重症率	4.3%	0.9%	0.9%	1.2%	0.5%	0.1%
中等症率	18.2%	10.2%	8.7%	6.4%	4.2%	1.2%
中等症以上率	29.2%	12.2%	12.0%	9.2%	5.0%	1.5%

第5波,第6波の病型(割合)



・・・第5波と第6波に限った病型の割合の図です。第6波での重症の割合の異様な低さが分かるかと思います。

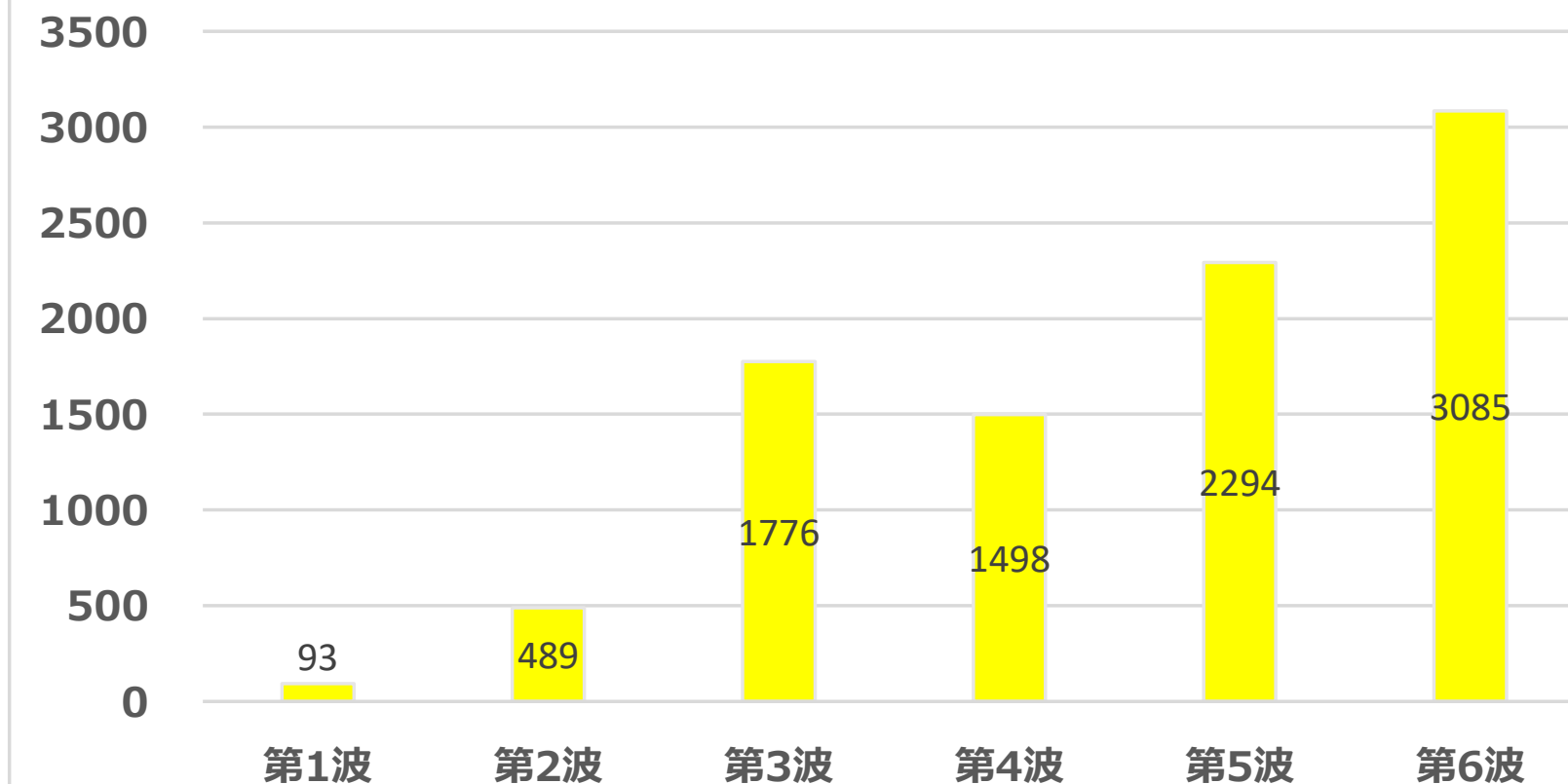
第1波～第6波の重症,死亡数



第1波～第6波の絶対数での重症、死亡数です。第6波では絶対数でも重症者数は少なく(第3波～第5波を下回る)、死亡数は過去最多です。

死亡データの公表はプライバシー保護と云う理由で、年齢すら多くは「高齢」としか記載されず、60代なのか、70代なのか、80代以上なのか不明が通例です。第6波での死亡690人中で、年齢の公表があり判明した60代までの死亡数は15人でした。この15人を除く675人を第6波での70代以上の死亡と推計すると、70代以上の感染者は21,957人なので、その致死率は3.1%となります(全体の第6波の致死率は0.3%)。次報で「オミクロン株とインフルエンザの致死率の比較」を予定しています。この数字を記憶にとどめておいて頂けると幸いです。

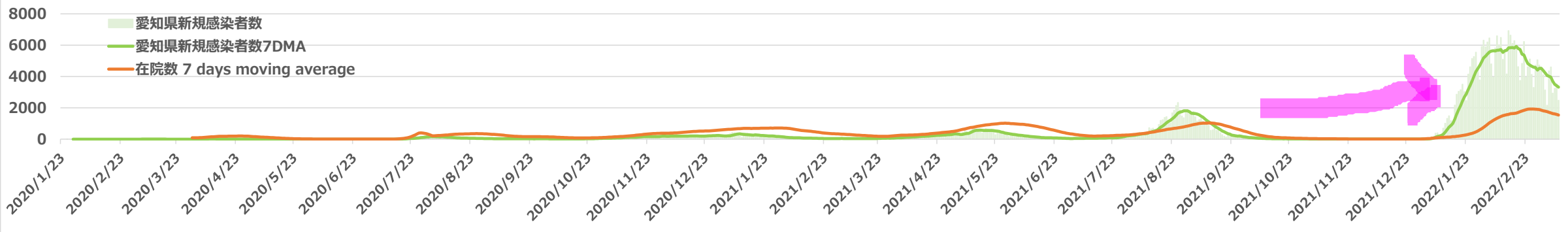
第1波～第6波の中等症数



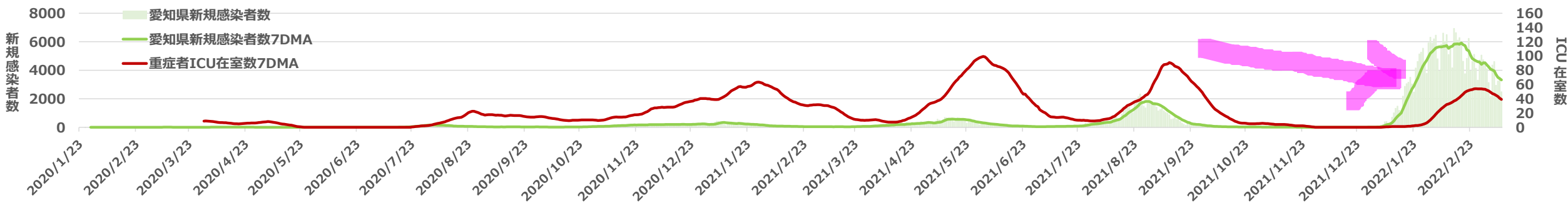
オミクロン株は病原性が低かったとは云え感染性が高かった為に、母集団としての感染者数が第6波では多かった為、第6波の絶対数での中等症数は過去最多で、病床逼迫が迫りました(一方、第6波では重症病床数の逼迫は余り問題視されませんでした)。

愛知県のまとめです。

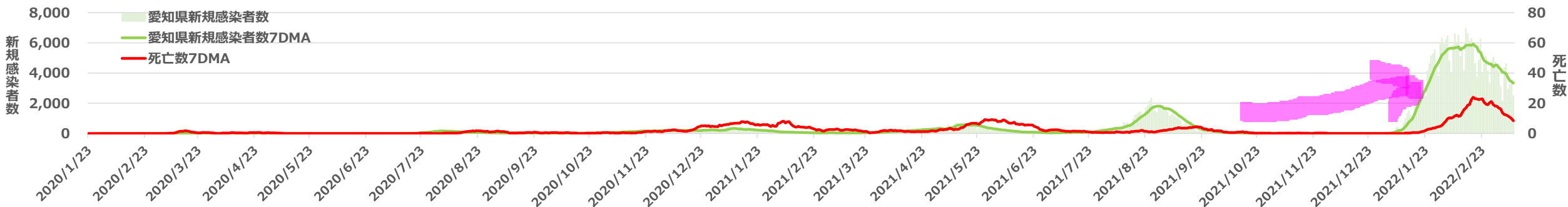
在院(入院数)数の推移



重症者ICU在室数の推移



死亡数の推移



最後に、本レポートは「看取り」で高齢者を犠牲にしたことへの責任追及を目的にしたものではない事を付言したく思います。ある意味で自然の摂理かとも思います。但し、次の三点は私見として申し述べたく思います。

1.この自然の摂理の考えが、次のフェーズに社会的弱者である「基礎疾患を有する人達」に安直に適用される事を危惧します。

2.経済重視を唱える識者は「一定の犠牲はやむなし」と堂々と述べて、結果責任の所在を今後は明示べきかと考えます。

3.今回の第6波の高齢者の犠牲は、明らかにブースター接種を2回接種後6か月で始めなかった岸田政権の責任です。いくら人柄が良くても、忘れてはならない失政かと思えます。